

愛隣館研修センターニュース

第78号

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 2F TEL 075-621-3849 FAX 075-621-1579

E-mail : airinday@sunny.ocn.ne.jp http://www.airinkan.net 振替 01020-5-39321

編集発行所：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者：平田 義

第3回向島駅前『春の祭典』 にお集まりください！

向島ニュータウン(入居開始:昭和52年)が出来て三十数年になります。2年後(昭和54年)には、近鉄向島駅が開業しました。以来、向島駅は、ニュータウンの“顔”の役を果たしてきました。

この“向島駅前区域”は、医療機関、保育園、幼稚園が集う場所です。

当初は、その真ん中に、ぽっかりスペースがあり、何もありませんでした。

それでも徐々に、モスバーガー、近商駅前店、喫茶店等、住民の利便性の良い商店が形成され、ようやく駅前らしい状況になってきていました。

ところが、2003年頃、突然、全商店が消えてしまいました。それまでの土地の所有者が土地を売ったことが判りました。

そんな時、この空き地が、葬祭場になるかもしれないという動きが出てきました。

2005年10月、私たちは、“まち”の大きな“顔”である向島駅の“駅前区域”を、住民の利便性に適した区域にするよう、『向島駅前まちづくり憲章』を定め、[向島駅前まちづくり協議会]を結成し、活動を始めました。

私たちにとっては初めての経験でしたが、各方面との対話と努力の結果、各方面の理解と協力を生み、私たちの要望に近い商店、「ローソンプラス伏見向島駅前店」の設置が実現しました。

2007年2月、この経験を教訓に、“向島駅前区域”を、医療機関、保育園、幼稚園、ローソンプラス向島駅前店等が集う、住民の利便性に適した区域としてさらに前進することを願い、『この区域の直ぐ東側に隣接するニュータウンのもう一つの象徴的存在である“中央公園”を活性化し、向島住民の親睦を深める場』にすることも目指すよう、『憲章』を改め、[協議会]をより発展させ、向島地域全体が便利で豊かな生活ができる地域になるよう進めていくことを表明しました。

そして、2008年3月23日、私たちは、その一環として、向島駅前『春の祭典』を実施しました。

幸いなことに、多くの方々のご協力とご支援を得て、楽しく祭典を終了しました。

この事業は、京都府地域力再生プロジェクト支援事業の申請を行い、認定されました。

さらに、“中央公園”の活性化をめざして、『向島中央公園愛護協力会』を発足させ、“中央公園”の美化と保全に取り組み、“中央公園”が向島住民の“いこいと安らぎと親睦の公園”になることを目指す活動も開始しました。

また、昨年度も、2009年3月29日、第2回向島駅前『春の祭典』を実施し、京都文教大学生の「よさこいソーラン」、種智院大学の「手話コーラス」、向島中学校生徒の吹奏楽、伏見区で活動しておられる『和文化伝承』の皆さんのご協力も得て、約1800人参加を得、成功裏に終えました。

向島地域全体が便利で豊かな生活ができる地域であることを確認するため、今年も、三度目、**第3回向島駅前『春の祭典』を実施したい**と考え、**2010年3月28日(日)10時～16時、中央公園西、ローソンプラス伏見向島駅前店東(裏)で開催する予定にしています。**今年度も、京都府地域力再生プロジェクト支援事業の申請をし、支援事業とする決定を受けました。

今年は、向島二の丸小学校、向島中学校、京都すばる高校の吹奏楽演奏、京都文教大学「よさこいソーラン」、種智院大学「手話コーラス」、中国帰国者京都の会の舞踏・二胡演奏、地元の子どもたち「Pink Cherubic」によるHip Hopダンス、愛隣館の保育士さんたちによる手遊び、ゲストとしてロックバンドの「Yoshy's」、尺八・チェロ・ピアノのトリオ「夕顔」の演奏等、盛りだくさんの企画を予定しております。また、向島産の新鮮な野菜の即売や模擬店なども出店いたします。

皆さま、お誘い合わせの上、会場まで足を運んでくださいますようお願いいたします。

向島駅前まちづくり協議会 会長 福井義定

シリーズ「賀川豊彦」を語る③

前号に引き続いて、イエス団理事の賀川督明さんに、イエス団の創設者である「賀川豊彦」について語っていただきました。

賀川豊彦とその仲間たちの後期事業

この4月、いよいよ賀川記念館がミュージアムを整えグランドオープンする。そのミュージアムの役割の一つは、私たちと私たちの先達が歩んできた100年の歴史を検証することだ。98年前の「貧民心理の研究」の検証も、2カ月前の「イエス団のミッションを確認する大集会」の反省も、私たちにとっては、何ら違わない同じ歴史。つまり、振り返るだけでも相当数のコンテンツが控えているわけだ。さらに賀川記念館は100年先に向けてのビジョンを模索し、今、現在の問題と向き合おうというのだから、その役割は山ほど大きい。とてもいっぺんにできるものではない。一つひとつの課題に丁寧に取り組むしか道はない。

賀川豊彦の後期事業は、平和運動とキリスト教伝道を中心に展開される。その仲間たちの多くは、保育、教育、隣保、医療、介護、組合、共済といった、それぞれの現場への取り組みを深めていく。

これらの活動を支えた二人の先達を覚えたい。神戸の武内勝と東京の木立義道である。木立義道は関東大震災直後に豊彦とともに、一瞬にして廃墟となった東京に活動拠点を移した一人だ。もう一人、震災復興をともした神戸人に深田未来生牧師の父、深田種嗣がいるが、その紹介は武内勝とともに別の機会とする。

木立義道は震災前まで神戸購買組合で働いていた生協職員である。関東大震災の救援に神戸YMCAが活躍したことはさまざまなところに記載されているが、イエス団も、神戸購買組合も、同じように働いていたのである。というか、実は一人の人が、神戸購買組合に籍を置き、イエス団にも属し、YMCAの活動にも参加し、イエス団教会の教員でもあったのだ。その働き方は、震災救援の現場にも伝わる。

木立は焼け野原に天幕(テント)を張り、保育園を立ち上げる。今の本所賀川記念館にある光の園保育学校がそれである。宗教部もすぐに始動した。これはやがて本所イエス団教会となり、現在、本所賀川記念館3階に東駒形教会として継続している。木立は基督教産業青年会の事務局を担い、江東消費組合(生活協同組合)を立ち上げ、医療利用組合を支え、中ノ郷質庫信用組合(現在の中ノ郷信用組合)の第3代の理事長を務める。すべて、賀川豊彦の活動として語られるこれらの事業は、木立義道というディレクターがあつた話。いや、もっと多くの人たちの志が集まったからこそ現在にまで歴史を刻んできたのだ。そのことは東駒形教会、70年史にくわしい。

関東大震災の救援天幕前に集まったイエスの友会メンバー。前列左からレオの妻が木立義道、その右後ろが深田種嗣、木立の後ろの女性が神学者佐竹明の母、佐竹千歳一



ところで、信用組合のことは今日ではほとんど一般に認知されておらず、信用金庫と同じだと思われている。信用組合は生活協同組合と同じで、出資した組合員の組織である。だから融資も組合員にしかされない。一方、信用金庫はスーパーマーケットと同じようなもので、信用組合に比べれば都市銀行と変わりがない。

そして太平洋戦争をまたいで存続した日本の信用組合は三つしかないそうだ。中ノ郷はその内の一つ。

中ノ郷質庫信用組合は名前の通り、質屋さんと信用組合の合わさったものからスタートした。店内には金庫ではなく、質草を仕舞う土蔵の入り口であった。質草の多くは布団。朝まで寝ていた布団を中ノ郷に持ち込み、わずかなお金を借りる。それを元手に日銭を稼ぎ、夕刻、稼ぎの中から質草の布団を取り戻す。残ったお金が生活費となる。銀行の貸し出し対象にならないものでも、顔の見える組合員という関係が貸し借りを成立させていたのだろう。その中ノ郷のスタンスは今でも続いている。バブル期には、土地投機にかかわる取引にはいっさい融資しなかったと聞く。つい先週の3月6日(土)に、『あつたかいおカネのまわしかた』と題して中ノ郷信用組合の取り組みが紹介されるシンポジウムが東京で開催された。

この中ノ郷を仕切った木立義道というディレクターの持っている「あつたかさ」は、日用品を扱う生活協同組合、貧しくても医療が受けられる医療利用組合、保育学校の子もたちやおかあさんたちに囲まれた基督教産業青年会の事務局などなど、さまざまなポジション、現場を自分の中に持っていたところから生まれたのではないだろうか。顔の見える組合員である借り手は、保育学校に来ている子どものおとうさんであり、医療利用組合の診療所の患者であつたのだろう。もちろん、多様な活動に主体的に取り組めば、誰もが自動的に「あつたかさ」を持てるわけではないのだが。

↑左から中ノ郷質庫信用組合、江東消費組合、基督教産業青年会会館と並んで建設された。

豊彦と深くかわつた人たちが「賀川精神」という言葉を使う。「賀川精神」を実践してきた人たち、木立義道や武内勝のこのフレーズはいったい何を指しているのだろうか。「賀川精神」という言葉は豊彦がつくった言葉ではなく、周辺の人たちの言葉だ。木立義道や武内勝が現場に放った「あつたかさ」が「賀川精神」という言葉を生み出したように思えてならない。

東京医療利用組合の杉並診療所開所式。豊彦、ハル、木立と並んでいる。



戦後、賀川豊彦は平和運動の中で世界連邦を提唱し、雑誌『世界国家』を発刊する。しかし、1948年(昭和23)4月号“闘争の世界より恒久平和の世界へ”の中で「いわれなき少数同胞への差別感を一掃せよ。優生学を推進して、悪質遺伝や反社会性の人間の出生を防遏せよ」と、悲しいかな未だ優生思想の真ただ中に立っている。

テレビやラジオが、我が子を虐待する親を頻りに取り上げる毎日が続く。その物言いは、子

どもを育てる資格のない、認めることができない「反社会性の人間」とレッテルを貼っているように聞こえる。そして、その報道を受け止める私たちもまた、冷たい気持ちを持ってしまっている。そこには「あったかさ」はない。

木立さんの、武内さんの「あったかさ」に触れてみたい。直接、豊彦に問いただしてみたい。この4月の23日で豊彦没後50年となる。過去を検証するという事は、難しい。(賀川啓明)

2・11 平和について考える日

2月11日(木)『はんでん祭り』を行いました。この日に向けてスタッフは、事前学習会を何度か行い、知識・考えを深めました。

『建国記念の日ってなに?』・『天皇ってなに?』・『日の丸が国旗になったのはいつ?』・『君が代の歌詞の意味は?』・『日本の戦争責任は果たされているのか?!』・『戸籍法ってなに?』…。実際の生活にはあまり関係がないようにも見えるけれども、何か節目を迎えるたびにそれらが、さも平然とした様子で顔を出す。大きな視点で『日本人』などと考えた時はそれらは避けては通れない壁となって存在する。振り返ればとても身近な問題でした。それなのに学ばず学ばず程に、分からないことが多くなってゆきました。「何か変だぞ」と思うようになりました。しかし、何が変なのかパッと答えが出ない不思議。答えの見えないテーマに対して、私達は何を2月11日の集会で行えばよいのだろうか?悩みました。そして出た答えが、『観客も皆で一緒に参加し考える演劇』でした。それが『はんでん祭り』。

平等に生きられない社会・いじめや差別ができてしまう仕組みを体感しながらも、どうしたら楽しい社会を作ることができるのか?!皆で知恵を出し合って解決するストーリー。皆で知恵を出し合う時間などは、どんな答えが飛び出してくるかドキドキしましたが、多くの意見を交換した後、無事皆一緒にダンスを踊り終了。最後のダンスで皆さんの笑顔が弾けてたのが印象的で、『平和』な時間を共有できたと感じたひと時でした。

『はんでん祭り』の中で、「これは変だぞ」「これはおかしいぞ」と感じ、声を挙げてもらったこと、今回はそれがテーマだったのかもしれない。社会にうまく隠れながらも存在するおかしさ、そこに気づき、声をあげてゆく大切さを実感しました。

愛隣館での活動は小さい事であっても、継続すること、その輪を少しずつでも広げてゆくことで結実する何かがあるのではないかと思います。

『「平和」を大切にする』を愛隣館の重要な役割だと自負し、これからも日々の活動に取り組んでゆきたいです。(横山利明)

柏木正行さんの魂に触れる⑩

ほのお

おともなくしずかに
おれのこころのおくの
さらにおくのほうで
くすぶりつつける にんげんの
ほのお
あるときには はげしく
また ときには よわよわしく もえる
おれの いのちの ほのお

つよいものに ふみけされるかもしれない
社会の かぜが ふきけしてしまうかもしれない
しかし おれは
おれじしんを もえるに まかせてみたい
だれに はばかりことなく
にんげんのはなを もえさかしてみたい
ここで こうして ほそぼそともやされるよりも
大都会の 不毛の 砂漠でも
熱い アスファルトの うえでもいっから
にんげんの ほのおを
おもいっきり ふきあげてみたい

柏木正行著「むくの木」より

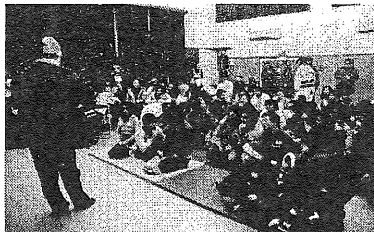
行事報告&予定

12/12-13 医療的ケア実践セミナー in 大阪

12/19 デイケア・シサムクリスマス会

プレゼント☆!

12/23 『遊隣』クリスマス会



↑ダモンテさん! 楽しい時をありがとう!

12/28 デイサービス忘年会

菊地さん特製お刺身&鍋を堪能!
マジックショーで大盛り上がり~! →

1/19 京都ブロック会議

1/27 愛隣館医療的ケア学習会

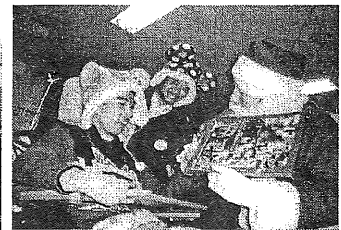
1/30 イエス団大集会

2/11 2・11 平和集会

3/6・7 介護職のための医療的ケア研修

京都市と京都市から委託を受けた NPO 法人医療的ケアネットとが主催する研修会が昨年に引き続き行われました。今年も、障害保健福祉課在宅係の係長と担当職員の方も、熱心に受講されていました。その姿勢に脱帽です!

3/9 京都ブロック会議

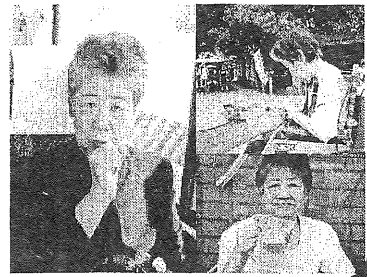


ありがとうの心

時に厳しく、時に優しく、ユーモアを持っていつも私たちの心を和ませてくださっていた石井末野さんが、2010年2月8日未明、83歳の生涯を閉じられ、天国に召されました。

一泊旅行に忘年会と行事もフル参加され、笑顔をふりまいてくださっていただけに、こんなに早く別れがやってくるとは誰もが考えられないことで、スタッフ一同、悲しみを隠すことはできません。

末野さんと一緒に歩ませていただいた今日までを大切に胸に抱き、スタッフ一同励みにし、歩んでいきたいと思います。末野さん、素敵な思い出をたくさん残して下さいありがとうございます。心よりご冥福をお祈りいたします。



ご支援ありがとうございました

今年度も多くの皆様に支えられて活動を続けていくことができました。今後ともよろしくお願い致します。

感謝を込めてお名前を載せさせていただきます。

愛隣館研修センター献金者
《月定会員》

明石邦子, 天野絵里, 飯田二美, 内海奈穂, 後宮昭子, 大原尚美, 奥間早登子, 奥田安子, 岡部清, 奥野美奈子, 大谷優子, 勝浦ゆたか, 神戸萌子, 金山秋義, 寒竹美穂子, 金子博・町子, 君村千代子, 岸佳津子, 木村美由紀, 木村耕, 北園由希子, 五藤薫子, 酒井由喜, 塩谷幸代, 高垣縁, 田中晃・千栄, 刀根史恵, 中村直子, 成瀬正代, 西岡景子, 西村美枝子, 西村めぐみ, 野堀妙子, 林栄子, 菱田万里子, 引原勝美, 福田尚子, 堀尾勝世, 松井知恵, 松川愛, 壬生輝子, 村川知子, 村上頌子, 恵ヒロ子, 毛利元美, 森弘・雄子, 安那芙美子, “安野喜仁, 優美”, 山崎希充子, 家形日出, 藪内みのり, 吉村麻弥香 (52名 477,000円)

《指定献金(夏期特別, クリスマス, 年会費)》

郵便振替(個人): 浅井智仁②, 今井晋, 池添素, 石川拓也・康司, 宇野みさ②, 上野政治②, 小国里恵, 織田雪江, 川尻良雄②, 加治木政子②, 賀川督明, 川上盾, 川中大輔, 川西大祐, 川田よしみ, 喜多明子②, 北野井一恵②, 木下祥吾, 黒田純②, 後藤一志②, 小西望, 小久保正, 近藤孝子, 清水真二・元介②, 志賀勉, 杉原輝明, 菅令子, 竹下佳貴②, 高津陽子

②, 田村早千枝②, 竹内富久恵, 武澤信夫, 滝口宣, 千葉宣義, 土田美佐江, 刀根史恵②, 富永裕子②, 土井淳平②, 中西静子②, 中村純孝②, 永島鉄雄・正人②, 中田正道・美歌, 中田ひとみ, 西田和可子②, 丹羽克吉, 野島正光・共子②, 浜口雄二, 朴実・清子, 藤田早紀②, 福井達雨②, 富士定夫②, 本田桃子, 丸山澄夫②, 松原智之, 間瀬史子, 前島宗甫, 黛ただし, 宮本真希子, 南原麻里, 村田稜太②, 村山盛嗣, 森田和子②, 守本孝造②, 山形幹夫②, 祐村明, 横山明子②
その他寄附金(個人)

赤保正典②, 猪ノ口愛子・敬幸②, 石田原さやか・横田明典, 飯村雅美, 織田雪江, 大濱冬樹, 柿本真介②, 嶋崎達也, 加藤弘子, 金岡貴子, 北野光晴, 君村千代子, 坂根智衣未, 高木恵子, 高橋秀幸②, 玉井, 土田 美佐江, 匿名, 富増献児, 中井二美②, 野村②, 林川忠男③, 浜口雄二, 島田知佳, 朴実・清子, 平井啓之②, 増田みち子, 増田征治②, 松本哲, 松岡匡宏, 松井知恵, 溝口修造・智之②, 恵ヒロ子, 森弘・雄子, 森大樹, 安野喜仁・優美②, 山本翔平, 飯中翔太, 家形日出, 湯口憲子 (148口 1,045,995円)
郵便振替(団体): 愛之園保育園, 芦屋岩園教会, 一麦保育園, 市川三本松教会, 石橋教会, オリジン電気商事株式

社, 軽井沢追分教会, 希望ヶ丘教会, 京都丸太町教会, ケアハウス楠葉新生園, 甲子園二葉幼稚園, 神戸教会, 坂出育愛館, 坂出育愛館(『遊隣』), 島松伝道所, 杉の子保育園, 須磨教会, 田中工務店田中俊介②, 丹波新生教会, 同志社女子高等学校②, 同志社中学校, 同志社高等学校宗教部, 同志社教会, 長岡京教会ミモザ会, 奈良教会, 西宮一麦教会, 野方町教会, 光の子保育園PTA, ぶどうの木保育園②, 平安教会, みどり野保育園, 翠ヶ丘教会, 紫野教会教会学校, 友愛幼児園, 洛陽教会, 黎明保育園
その他寄附金(団体): あかとんぼ(小中謙吾, 宮坂亜矢子, 寺田知沙, 福田竜一), 伊藤珠算教室, コミュニティーバスを走らせる会, 新婦人の会, 住みよい向島をつくる会, 世光教会, 世光保育園, 空の鳥会, 二ノ丸民生児童委員協議会, 枚方くずは教会, 民商向島ニュータウン, 向島日本語教室②, NAの会, Pink cherubic (53口 555,500円)

2010年3月12日現在 敬称略

尚、記入に際しましては万全を期しておりますが万が一記載漏れがありましたらご一報ください。

☆お知らせ☆
▽愛隣館研修センターは、6月8日(二)日を休館日とさせていただきます。
★編集後記★
▼様々な分野の方からエッセンスを戴き▼旨味あるセンターニュースを発行し続けたいと思っております。ご協力よりしくお願ひしませす。▼ご意見、ご感想をお待ちしております(さ)
▼センターニュースのご愛読ありがとうございます。お寄せいただいた後、後には必ずお返事をさせていただきます。▼今年度の夏期献金、クリスマス献金の通信欄に記されたコメントをご紹介します。▼「愛隣館からあふれ出てくるおさなご達の元気なふるる折り返し、接している人達の動きに感謝し、地域を感じていられて喜ぶことに感謝いたします。」(向島Nさん)▼「この度の賀川賞おめでとございます。今後も草の根運動を地域のため、障がい者のために進めさせていただきます。」(芦屋市Kさん)▼「人間の弱さゆえ、悲惨な事件が続いておりますが、皆さまのご活躍は「光」ゆえ、衣のすそを少しだけ触れさせてください。」(向島Nさん)▼「向島Nさんへお返事をさせていただきます。皆さまの言葉に勇気づけられています。▼多謝! (ひ)